

# 東日本大震災をどう受け止めたか —3.11 以後、日本再生への道

## 目次

「私はこれからも、あなたのことを決して忘れない」 —まえがきにかえて 池田 雅之 1

### 第1章 被災にどう向き合ったか 3

3.11 —あの日、その後、私が経験したこと（佐藤由紀）／教育の「実り」が北東北で教えてくれるもの（柑本英雄）／東日本大震災について（平山廉）／学校教育にもパラダイムの転換を求めた3.11（滝澤雅彦）／忘れてはならないこと（小林良枝）／「フクシマ」から「福島」へ（佐川佳之）／被災地で感じてきたこと（久山雄大）／震災以後、何ができるのか —祈りの力（田中恵美）

### 第2章 海外から見た東日本大震災 23

変わりゆく境界線（花光里香）／アメリカから見た東日本大震災について思うこと（高倉美幸）／東日本大震災に対するラテンアメリカ諸国の対応（工藤章）／ある外国人研究者の「知識人としての自己責任論」—東日本大震災に思う（洪琬伸）／東日本大震災についての感想（伍ジャニ）／東日本大震災で海外から評価された「秩序ある冷静な日本人」（田中聡子）／東日本大震災について（アン・キ）／地震を通して見た日本人（羅ハンソル）／東日本大震災—苦しみは誰のものなのか？（ピーター・マックミラン）

### 第3章 「震災後」の社会はどうあるべきか 44

震災直後に授業があったとしたら（岩井方夫）／ツナミのように（小林茂）／避難民（長尾龍一）／東日本大震災と情報（梅宮小百合）／科学技術という迷信—東日本大震災の原発事故に関する感想（劉婧）／人間の営み（西本晃二）／関係性の回復へ向けて（照屋佳男）／現象の救済への視座（竹之下夏彦）／非日常性と日常性（西川秀和）／東日本大震災を振り返る（羽田紀男）

## 第4章 ボランティアの未来像 69

繋がりつつ、生きる―「鎌倉てらこや」通信（池田雅之）／震災とボランティア―3.11からの教訓（植田伸也）／震災後のボランティア（村田久美子）／震災ボランティアに臨むために（内田杏奈）／震災とボランティアについて（大川貴士）／震災後の子供たちの心のケアと「鎌倉てらこや」（白井唯）／震災とボランティア（伊藤未希）／東日本大震災と「鎌倉てらこや」（原山高輝）／私と震災ボランティア（源五郎丸籬子）／ボランティアとは何か（河島朋美）

## 第5章 「震災後」をどう生きるか 90

高潔な被災（谷田部亜希）／3月11日（八巻太郎）／3.11の影響（崎原真理子）／震災に見る日本人（山崎耕平）／3.11以後の私（前里美奈子）／東日本大震災で感じたこと（村井妙）／東日本大震災による価値観の変容について（甲斐大輔）／3.11東日本大震災を経験して（宮地裕子）／震災後に必要なこと（奥山恵梨香）／自然と価値観（中野正子）／震災と共同体の可能性（味野安紀子）

## 第6章 被災地ボランティア・レポート 110

震災から3カ月が経過した被災地―岩手県沿岸地域の現地視察レポート（小木曾駿）／被災地訪問から分かること（阿部倫子）／学生たちの不思議な力―被災地で生かされた「鎌倉てらこや」の経験（池田季実子）／「サンタプロジェクト」に参加して（岩沢圭一郎）／「鎌倉てらこや」復興支援活動レポート―福島県大熊町の子どもたちとの共同生活（上江洲慎）／感謝―東北に復興支援便を届ける（湯澤大地）

## 第7章 震災・原発を考える本 145

マイケル・サンデル著『マイケル・サンデル 大震災特別講義 私たちはどう生きるのか』（滝澤雅彦）／内田樹・中沢新一・平川克美著『津波と原発』（滝澤雅彦）／佐野眞一著『津波と原発』（澤智恵）／武田徹著『原発報道とメディア』（小林良枝）／西部邁・佐伯啓思編著『危機の思想』（池田季実子）／マルティン・ハイデッガー著『技術への問い』（佐藤臨太郎）

「距離」から震災を理解すること ―あとがきにかえて

佐川 佳之 159

表紙： 瓦礫の山と化した町の空に泳ぐ鯉のぼり（岩手県山田町にて）

裏表紙： 復興への祈りを込めて風船を飛ばす福島の子どもたち（鎌倉・由比ヶ浜海岸にて）